

北海道の元気! NPO訪問

19 NPO法人とむての森

文・加藤知美

誰もが当たり前前に暮らせる地域福祉めざし 小規模多機能の共生施設を拠点に事業拡大

◇ 障がい者の働く、評判のカレー屋・パン屋

北見市の野付牛公園近くの住宅街の一角に、最近地元で話題のパン屋さんとカレー屋さんがある。障がい者・児への福祉サービスを行うNPOが運営する店だが、そうと言われなければ気がつかないかもしれない。正午前に訪ねたカレー&バー「SARASA」には、まもなく女性グループが次々と来店し、二〇席ほどの店内があつという間

に賑やかになった。元洋食店シェフがつくる北見特産の玉ねぎをたっぷり使った欧風カレーがおいしい。

一方、同じ敷地内にある小さな森の焼きたてパン屋さん「Fata」には、近所の北見工大の学生さんが店内に入りきれずに外で順番待ちをしていた。こちらは、ライ麦パン、フランスパンなどハード系のパンや菓子パン、調理パンなどがぎっしりと並んでいる。

いずれも「NPO法人とむての森」が、収益増と障がい者の働く場所の確保を目的に始めた事業だ。福祉を前面に出すのではなく、「障害をウリにせず商品をウリに」をモットーに、来てみたら障がいを持つ方が働いていたというお店を目指している。

法人本部の事務室がある「ふれあい@とむてホーム」の建物には、パン屋の「Fata」のほか、ホームヘルプサービス事業所「どんぐり」、移動支援サービス事業所「とろっこ」、就労支援事業所（就労継続支援B型）「すてつぷ」、地域たすけあい&とむてサロン「きつじゅ」といった事業所のほか、定員六名の共生型賃貸住居「ふれあいホームのびのび1号館」が一つ屋根の下にある。二〇〇八年、厚生労働省の地域介護・福祉空間整備等交付金事業による交付金三〇〇〇万円で改築し、



法人本部のある共生型ハウス「ふれあい@とむてホーム」

障がい者、高齢者、子どもなどへの福祉サービス提供の拠点ができた。役所とやりとりしながら計画書を自分たちの手で調え交付にこぎつけた。完成後も店舗の外回りなどを手作りで整備していった。障がいのある人が、厨房でプロのパン職人に教わりながら仕込みをしていたり、その奥の廊下ではスタッフの助けを借りて丁寧に掃除をしている。ともに支えあいながら安定した生活を送れるようにするのが目標だ。同様の交付金で、カレー&バー「SARASA」を含む「ふれあい@あつたかホーム」を翌年完成させた。こちらは、子育て支援や中間支援NPOの団体と共同で管理運営している。さらに、今年六月には、高齢者のグループホームと看護大学生対象住宅二室がある「ふれあい@しゅんこうハウス」をオープンした。

◇ 収入減のピンチを乗り越え

順調に事業が拡大しているが、法人設立当初は苦労の連続だった。

前身は、一九九八年に誕生したサークル活動だ。スウェーデンの童話にでてくる、子どもたちの幸せを見守る妖精にちなんで、「とむての森」と名づけ、障がいのある子どもを持つ親を中心に勉強を重ね、サポートセンターを開設した。

二〇〇四年に「NPO法人とむての森」を設立し、念願の児童デイサービスを始めた。ようやく軌道に乗り始めた二〇〇六年四月に障害者自立支援法が施行され、従来の支援費制度に比べ利用者の経済的負担が急激に増えたため、利用が大幅に減り収入は一気に四割落ちた。存続のためにパンの宅配を始めることにし、一口一万円の擬似私募債で一〇〇万円を調達してオープンを購入した。旭山動物園で人気のメロンパンと同じ生地を使い、焼きたてあつあつを届けるため、すぐに人気がでて、その売り上げでなんとかピンチを脱した。その後も網走農業大学の学生と共同研究で地場素材を使ったピザを開発するなどアイテム数も増え、二〇〇八年に念願の店舗を構えることとなった。



カレー& Bar「SARASA」。おしゃれな外観が目玉を引く

法人設立当初は、前身の活動から関わるメンバーの一人が代表理事だったが、利用者の母親でもあり負担は大きく、まもなく福祉分野の若き活動家にバトンタッ

チされた。福祉専門学校の講師もつとめ、現在主力を担う若手男性介護福祉士二名の野口富弘さんと伊藤栄一さんを有望と見込んで職員とするなどしたが、二〇〇六年に病気で亡くなった。現在、とむての森の地域たすけあいサービスで、障害福祉サービスや介護保険が適用にならない部分を補うサービスを受けるときに利用できる地域通貨の単位に彼の愛称「金ちゃん」が使われている。

◇ スタッフのアイデアと行動力で、独自の福祉を実現

野口富弘さんは、事務局次長としてカレー& Bar「SARASA」や福祉サービスを担当するが、もともととは技術系の大学に学び、IT企業に就職するつもりだったそうだ。接客の仕事を楽しそうにこなしている、「カレー屋さんも福祉も同じサービス業」と言い切る。伊藤栄一さんは航空自衛隊出身という変り種。パン屋の「Fata」を担当し、ハンバーガーの移動販売や石窯パンの開発などに乗り出している。さらに就労支援事業所「すてっぶ」の利用者をステップファクトリーズ(Step Factory)としてプロデュースし、アーティストとしてデビューさせた。彼らの絵をポストカードにして店内で販売し、収益はそれぞれの作家に支払われる仕組みだ。福祉の既成概念にこだわらず、おいしいもの良いものを売りおしゃれな演出で喜んでもらうお店づくりはこの二人の行動力によるところが大きい。常勤・パートあわせて四〇名のスタッフのまとめ役でもある事務局長の弓山祐子さんも、「お店の外観を自分たちの手でつくっ



まずはやってみるの精神で何事にも積極的に取り組んでいる野口さん



障がいの絵ではなくアーティストの作品としてポストカードを発売した伊藤さん

たり一生懸命やっています。それも、やりたいからやっているといった感じで仕事をこなしてくれています」と気負いなく働く二人に期待を寄せるとむての森の活動は、児童デイサービス事業、移動支援事業、日中一時支援事業、ホームヘルプサービス事業、地域たすけあいサービス事業をおこない、パン屋とカレーショップで収益をアップさせる仕組みだ。当初から取り組んできた移動支援事業は、ニーズも多く希望に応じきれないほどだが、自治体が決める単価は低く、合併でさらに広くなった北見市での事業は採算ラインぎりぎりだという。障がいをもち子どもが成長する過程、特に高校生以降の生活には重要な意味をもつサービスだけに課題は大きい。弓山さんは、「多様な住民がささえあい、地域であたりまえに暮らせるために、集いや仕事や居住を提供していきたい」と願っている。

◆ NPO法人とむての森

所在地 北見市公園町166番25号
TEL 015713218715
WEB <http://www.12.plala.or.jp/tomute/>